

「言語活用」について

●「言語活用」は欧米諸国で教科として教えられています。言語活動のあり方を見直し、表現力や分析力を高めようとするものです。一中では効果的にBTや授業を実施するために、着目してきた指導技法です。

先進校での取組や、文献を参考にしながら、各学年とも取り組んできました。平成25年度から、「言語活用科」として松戸市全体で履修しています。研究を加えながら、本年も昨年版の改善を行い継続して取り組んでいく予定です。

一中で実施している内容



- ・意見を言おう
- ・分かりやすく伝えよう
- ・その人になって書こう
- ・話を再現しよう
- ・分析しよう

※下の絵は、実際に授業で用いる教材の例です



「その人になって書こう」で用いる教材の例
登場人物（子ども、大人）や作者の視点からコメントを考えなさい。

「分析しよう」で用いる教材の例

この絵を見て場所、季節、天気、時間、登場人物について、絵の中の根拠に基づいて説明しなさい。

これらの問題には、決まった正解はありません。根拠に基づいて説明できることをねらいとしています。

「日本語分野」と「英語分野」があり、日本語と英語の両方で表現力や分析力を磨いていきます。

